

国際学会でプロジェクト成果を発表しました

国際看護師協会 (International Council of Nurses, ICN)大会2019 6月27日-7月1日 於シンガポール
プロジェクトチームは、ICN大会に参加し、発表を行いました。ICNとは、世界各国の看護師協会から構成される組織で、質の高い看護、保健政策、そして看護の知識の発展を保障するために活動しています。2年に1度開催されるICN大会は100カ国以上4,000人を超える看護師が参加する世界最大規模の看護学会です。発表では、プロジェクトが作成した研修プログラムが新人看護師のみならず、看護管理者、臨床指導者（プリセプター）の能力強化につながることを報告。会場からは指導者研修の具体的な内容や課題について関心が示されました。今回の大会参加で得られた最新の知見やネットワークは、プロジェクト活動のみならず、ベトナム看護の発展につながるものと期待されます。

第2回バックマイ 国際看護科学学会 7月24日 於ハノイ
ベトナムでは、看護系の学術研究団体（学会）が存在しない代わりに、看護協会や各病院が独自に研究発表会を開催し、根拠に基づく看護実践、看護学の発展に努めています。プロジェクトのパイロットサイトの一つであるバックマイ病院では、昨年はじめての国際看護科学学会を開催。2回目となる今年は、プロジェクト（日本）のほか、アメリカ、タイなど10か国の看護関係者を招き、「看護実践の变革」をテーマに開催されました。会場には、国内外の看護実践・教育関係者600人以上が参加し、30演題の発表がありました。

プロジェクトは、エンドライン調査結果の一部を用いて、新人看護師のコンピテンシーの実際を示し、結果をいかに看護マネジメント（人材開発や人材配置）に応用するかを提言しました。国際会議である本大会では、ベトナムからの参加者も含め、発表の多くが英語（ベトナム語の同時通訳つき）で実施されました。



参加者からの質問に対応するゲン・ティ・ミン・チン先生(上)、世界中の看護師が集うメイン会場(下)

プロジェクトから5名が参加。左からゲン・ティ・ミン・チン氏（ナムディン看護大学、臨床実習センター長）、ファム・ゴック・バン氏（保健省科学技術局専門員）、堀井（プロジェクトチーフアドバイザー）、ファム・ドゥック・ムック氏（ベトナム看護協会会長）、チャン・ティ・トゥ・フォン（プロジェクトオフィサー）



開会式には、保健省、看護協会、大学、病院の看護リーダー、および国外からの招へいスピーカーらが参加(上、左下)、「看護職員の褥瘡予防に関する知識と態度」について発表するバックマイ病院ブイ・ミン・トゥ看護部長(右下)

改訂版教材を用いた自主的な活動が各地で実施されています

ハノイ市：同保健局は独自予算を用い、パイロット病院であるセントポール病院と協力し、市内の3つの病院を対象としたプリセプター研修を行いました。同研修に参加したドゥック・ザン病院の看護部長は研修後に自組織での研修を企画。24名のプリセプターが新たに養成されました。

ビンディン省総合病院：同病院看護部は改訂版教材の説明会を実施し、プリセプターだけでなく、病院内の関係部署が参加しました。説明会では「コンピテンシーに基づく評価・アセスメントに関するワークショップ」を同時開催。プリセプターの継続教育の機会にもなりました。

こうした自発的な取り組みは、臨床研修の重要性が浸透したこと、また、病院や行政の看護部が課題を分析し改善のために実践できるようになったこと、つまりマネジメント能力向上の結果と考えます。